

東京YMCA



2022年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

2022年度事業計画

人と社会の健康を願って



2022年度 東京YMCA運営基本方針（抜粋）

2022年度は全国YMCA総主事会議、同盟協議会で採択された、日本YMCA中期計画に基づいて東京YMCAの運営方針を策定する。
コロナ危機で傷つき疲弊した人々、市民社会、地球を愛し、未来に向かって青少年が夢と希望を抱くことができるように、5つの側面から東京YMCAの基本方針を定める。

1. ポジティブ・ウェルビーイング (Positive well-being)

「人、市民社会、地球の健康のために」

Positive well-being を提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、人、市民社会および地球の健康を目指す。

2. ユース・エンパワーメント (Youth Empowerment)

「若い力がYMCAで輝くように」

若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える。

3. テクノロジー フォー ソーシャル インクルージョン アンド ダイバーシティ (Technology for social inclusion & diversity)

「誰も置き去りにしないために」

インクルーシブな社会の実現のために、あらゆる場面でテクノロジーを活用し、多様なオンラインコミュニティのプラットフォームとなる。

4. パートナリシップ (Partnership)

「既存の枠組や領域を超えてつながるように」

東京YMCAが取り組むべき地域社会の課題を明らかにし、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし、時になかったスピード感をもって解決に臨む。

5. チェンジ・エージェント (Change Agent)

「YMCAに連なるすべての人がよりよく変えたいと思うように」

未曾有の世界危機において、YMCAに関わる一人一人がポジティブネットの実現のために地域、世界の課題に臨み、Change Agentの育成に注力する。

事業を再編、専門性高める

公益財団法人東京YMCA総主事

菅谷 淳

新年度がスタートしました。昨年は4月に緊急事態宣言が発令され、プログラムの中止や休止、延期や代替実施に迫られた年でした。幼稚園や保育園、こども園や学童保育の担当者はエッセンシャルワーカーとして運営を続けましたが、特にオミクロン株の拡大後は、対応に翻弄されました。さて、ブランディングプロジェクトから5年が経過し、ロゴやスローガンなどYMCAブランドとそのイメージが整えられてきました。一方でYMCAの働きそのもの

も、より会員や参加者支援者にわかりやすく、選ばれるものとなるためにさらに進化していく必要があります。2022年度は数ある活動、事業それぞれの専門性を高め、より選ばれたYMCAとなるために事業を目的に沿って再編し事業強化をはかりま

す。また、各エリアに「地域コーディネート」を配置し、地域の課題と期待にこたえる働きを検討、展開していきま

す。そして、組織をより機能的にまた強固にするために「日本YMCA中

期ビジョン」に基づいて東京YMCAの運営基本方針を作り直しました。それは以下の5つの柱に基づいて改革を進めるとい

うことです。1番目の柱は「人、市民社会、地球の健康のために（ポジティブ・ウェルビーイング）」です。「ウェルビーイング」は健康や幸福を意味する福祉用語ですが、これはYMCAの運動やプログラム

の存在価値と対象者を明確にして積極的に進めようというものです。誰の健康か、それは人々であり、市民社会であり、地

球の健康のために、ということです。2番目の柱は「若い力がYMCAで輝くように（ユース・エンパワーメント）」です。過去にYMCAに関わりのあった若い人たちがもう一度YMCAに戻ってくるためには、若い人たちが魅力を感じるYMCAにしなければいけません。ただそれはYMCAの既存事業やプログラムを

手伝ってもらうのではなく、若い人たちが主体的に青少年を取り巻く様々な課題に寄り添う活動ができるように、場所や資金を準備し陰から応援するということ

です。3番目の柱は「誰も置き去りにしないために（テクノロジー・フォー・ソーシャル・インクルージョン・アンド・ダイバーシティ）」です。国や民族、宗教や言語、LGBTQ、障がいのあるなど、様々な違い、多様性があっても共に暮らす社会を作りたい、そのためにテクノロジーを活用したいということ

です。4つ目の柱は「既存の枠組や領域を超えてつながるように（パートナーシップ）」です。「み

つに「つながる」は「よくなる」は「世界をより良いものに変えていくための若手を中心とするリーダーシップ」を指しま

す。若くて英語が堪能で向上心豊富なユースリーダーや若いスタッフがチェンジ・エージェントに任命されてきたが、今回も

も、チェンジ・エー

ジェントも、チェンジ・エー

各事業計画概要

＜2022年度運営組織図＞

◇教育・保育事業部
キャナルコート保育園 オリーブ保育園 保育園 ねがい 芝浦アイランドこども園 し の の め Y M C A こども園 江東 Y M C A 幼稚園
◇地域福祉事業部
医療福祉専門学校 江東区東雲児童館・きっずクラブ＊ 江東区東雲第二きっずクラブ＊ 江東区東雲第三きっずクラブ＊ 港区立芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ＊ 港区芝浦学童クラブ＊ グランチャ東雲（江東区児童・高齢者総合施設）＊ ＊＊は指定管理や受託事業など、行政協働事業
◇国際・総合教育事業部
国際ホテル専門学校 高等学院（通信制高校） にほんご学院 インターナショナルスクール（T Y I S） K G（英語幼児園） 語学教育 カルチャー＆アーツ 国際部
◇ウエルネス事業部
＜健康教育＞ 江東ウエルネス 山手ウエルネス ウエルネス東陽町 放課後等デイサービス P I T 西早稲田 ＜野外教育・ユース＞ オープンスペースliby（リビー） 野外教育 山中湖センター 野尻キャンプ 高尾の森わくわくビレッジ 社会体育・保育専門学校
◇会員部・賛助会・募金 F D 室
賛助会、募金 F D 室 会員部
◇本部事務局
＊各コミュニティセンター（江東、山手、西東京、南、東雲）は事業部には位置づけず「地域活動コーディネーター」を配置する

今年度より組織図を大幅に変更しました。

これまでは、コミュニティセンター（以下センター）の責任者が、そこで行われる各種事業を統括していましたが、今年度からは拠点を横断して事業毎に責任者を配置し、センターを含む東京 Y M C A の各所で行なわれている事業全体を統括します。各センターは事業部には位置付けず、「地域活動コーディネーター」を配置します。

各事業部の計画概要をお知らせします。



グローバル化が進んだ現代では、コロナ禍やウクライナ危機など、一つの国や地域で起きることが瞬く間に世界中に拡がって影響を及ぼし合う時

国際・総合教育事業部

（統括 松本 数実）

地球市民を育て 平和を築く

代です。日本国内でも外国籍の方々の人口は増え続けており、異なる言語、価値観、文化を持つ人々と共に生きていくことが日常化しつつあります。

①国際化、多様化する地域社会で全ての人が自分らしく生きるための学習環境を提供する。
②変化の激しい多文化共生社会で、あらゆる手段を使って人と人をつなぎ、協働、共感の場を提供する。
③全人的成長に必要なあらゆるプログラムを実践し、共成（共に成長すること）の場を創造する。これらの方針の下、各

部では以下のことに重点を置き、活動を展開していきます。

- 各学校では国際性、主体性、多様性に対応した教育内容を強化する。
- 全てのプログラムに S D G s（持続可能な開発目標）の学びを取り入れ、子どもたち、若者を将来のチェンジ・エージェント（変革者）となるよう導く。
- S N S やオンラインを駆使して国内外の Y M C A との連携を強化する。
- 事業部内外の多様な部門間の連携、協働を強化し、Y M C A の総合力を生かした新たなプログラム開発を目指す。

さまざまな業種が集まる事業部ですが、Y M C A の使命に基づき、公正で平和な社会を築く人を育てていくよう、力を尽くしてまいります。



ウエルネス事業部は、健康教育、野外教育と社会体育・保育専門学校で構成され、「精神・知性

ウエルネス事業部

（統括 松本 竹弘）

“真の健康”を目指して

・身体と社会性」のバランスのとれた成長を目指す事業部です。

◆「健康教育」は、水泳をはじめテニスや体操、サッカークラスなどを実施します。今年から水泳には参加費補助制度「フレンドシップファンド」を適用し、経済的な事由によらず誰もが参加できるよう進めます。また例年どおり、近隣の学校等と着衣泳指導をするなど、地域での水上安全教育も推進します。

◆「野外教育」では、自然の中で仲間と共に活動することで、自然への畏敬の念や友だちを尊重する心を育みます。障がいのある子どもたちの余暇活動にも力を入れ、同時にこれらの活動を支えるボランティアリーダーの育成にも力を注ぎます。

また、若者が集まって夢を語り、夢を実現していく場も作ります。多くのボランティアを輩出した山手センターは70周年を迎え、これを機に O B O G の組織化を検討し、新たなプログラム展開が可能な環境を作ります。

◆山中湖センターは2023年に100周年、野尻キャンプも2025年

に100年を迎えるため、周年事業に着手します。若者の意見を取り入れ、S D G s にも取り組むなど時代に即したキャンプ場にしていきます。

◆社会体育・保育専門学校では、学生主体のスクール企画運営に挑戦。保育科では卒業生を中心にリカレントの実施も計画しています。

◆青少年の居場所「liby」は、拠点を南センターに移し新たな展開を図ります。

幅広い事業部ですが、スタッフ間の連携を図り、会員・関係者と協働しながら、地域のニーズに応えられるよう取り組んでまいります。

地域の子育ての核となつて

教育・保育事業部

（統括 秋田 正人）



「公益財団法人東京 Y M C A」と「学校法人東京 Y M C A 学院」の2法人で運営している保育事業を、今年度から各法人のガバナンスは維持しつつ

全国 Y M C A で作成した「教育・保育の使命」に基づいて、次の3点を柱にしていきます。

◆「一人ひとりの子どもが愛されていると感じることができるよう守り育てます」。親、友だち、保育者そして何より神様から「愛されている」と実感して過ごせる場を提供することが私たちの活動の基礎になります。

◆「子どもの成長とともに喜びを合えるように家庭と手を携えていきます」。虐待や育児放棄など、子どもを取り巻く様々な事件の報道は後を絶

つも、東京 Y M C A の乳幼児期の活動として連携を強めながらマネジメントし、思いを一つにして運営していきます。

保育内容は、数年前に

◆最後に「地域の人々と、ともに生きる地域社会の形成を担います」。Y M C A が、地域の子育て支援の核となつて、子どもに対する大人の温かい眼を地域に広げ、お互いに支え合い、地域全体で子どもを育てていく。そのような社会の実現を目指します。

■「東京大空襲体験絵画展」に400人来場

平和の大切さを伝えたいと3月1日～9日、東陽町コミュニティセンターロビーで「第7回平和展」を開催。すみだ郷土資料館より「東京大空襲 体験絵画」100点をお借りして展示すると



もに、体験談のビデオを上映しました。9日間で延べ400人が来場。戦争を知らない世代から戦災を経験された方までたくさんの方から感想が寄せられました。子どもたちからも「こんなことは繰り返してほしくない」「戦争はしたくない、命を大切にしたい」という率直な思いが寄せられました。

ウクライナの惨状が日々報じられる中、私たちは引き続き、いのち、平和の大切さを訴えるため、夏には広島・長崎をテーマに展示会を開催の予定です。

(東陽町コミュニティセンター 沖利柯)

■東日本大震災11周年 被災地物産展開催

東日本大震災から11年となった3月11日、仙台YMCAと石巻広域ワイズメンズクラブとの共催で「3.11追悼と感謝の会・記念礼拝」が開催されました。「YMCA石巻支援センター」を会場に、近隣の児童館や学童クラブ、また東京YMCAの会員職員など、支援活動に関わりのあった方々がオンラインでつながり14時46分に黙祷を捧げました。その後、震災ボランティアを機に石巻に移住した高本エリック宣教師(ビーワン教会)から「壁を壊す神様の愛」と題してメッセージをいただき、今も絶望から立ち直れずにいる多くの方々に、一日も早く希望と平安とがもたらされるようにと、会場一同、心を合わせて祈りました。

礼拝の数日前からは江東YMCA幼稚園など都内4カ所で「東日本大震災11周年物産展」を実施。被災地の産業復興を応援したいと、サバの缶詰やわかめ、牡蠣の加工食品などを販売しました。(会員部 中里敦)

■「第23回libyチャリティーコンサート」85人参加



不登校など生きづらさを抱える青少年の居場所「東京YMCAオープンスペースliby(リビー)」を支援するため3月13日、「第23回libyチャリティーコンサート」を開催。山手コミュニティセンター

ーでの会場参加とライブ配信とのハイブリッド形式で行ない、85人が参加しました。

「越智光輝さんとゆかいな仲間たち」によるピアノ・クラリネット・ヴィオラの演奏のほか、「三菱商事コーラス同好会」も映像で出演くださり、会場は素晴らしい音色に包まれました。益金165,227円は全額libyの活動を支援するために用いられます。実行委員として初回からサポートくださっている「東京たんぼYサービスクラブ」はじめ、参加・協力いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。

オープンスペースliby 移転のお知らせ

4月より「オープンスペースliby」は、これまでの杉並区西荻北から世田谷区宮坂の「東京YMCA南コミュニティセンター内」へ移転しました。1998年の開設以来20年余、主に10代後半～20代の若者の居場所として運営してきたlibyですが、環境が変わることもあり、今後は活動内容も一部変更の予定です。詳細はホームページをご覧ください。

【移転先】

所在地：〒156-0051 世田谷区宮坂3-23-2

東京YMCA南コミュニティセンター3階

最寄駅：小田急線・経堂駅徒歩3分

電話：03-3420-5361 メール：liby@tokyoymca.org

URL：http://tokyo.ymca.or.jp/communitiy/liby.html

2022年度

行政と共に、地域をつくる

地域福祉事業部

(統括 秋田正人)

地域福祉事業部は、行政からの受託や指定管理により地域福祉を担う事業と、介護福祉士など福祉人材を養成する医療福祉専門学校によって構成



されます。ここには大きく分けて3つの要素があります。「高齢者福祉」「児童館(子育て支援から中高生)事業」「学童クラブ」です。「芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ」と「グランチャ東雲」は、児童館・子育て支援事業と高齢者の健康・カルチャ―事業を併設し、世代を越えた交流に取り組んでいます。行政による福祉には世代や制度の枠組みによる制約がありますが、ここではそれらを超えて高齢者と子どもたちが一緒に活動したり、学

齢期の子どもが子育て中

の親子と触れ合ったり、また地域の自治会や学校などと共にまちづくりの一端を担っているというのが大きな特徴です。そしてそれらを得意として

会員・支援者の輪を広げて

会員部・賛助会・募金FD室

(統括 堀雄二)

・FD室は、YMCA運動を地域に広め、社会に貢献できる活動を展開するため、2022年度は次のような事業方針のもと活動を展開します。①会費によってYMCAを支えてくださる会員だけでなく、寄付やボランティアなどさまざまな形で協力している支援者を仲間に加える組織化する仕組みを作り、YMCAの活動を地域に広めます。②国籍や人種、性別や年齢、出身地や社会的地位、障がいの有無に関わらず、YMCAを訪れた人が誰でも参加できる運

動や活動の数、種類を増やします。それらの活動の支援形態を整えるため、会員部や各部、地域活動コーディネーターは一人でも多くの会員やボランティアの賛同を得られるよう、丁寧に対応していきます。③2022年度もコロナ禍が継続することを前提として、各事業において見直し、各事業においても賛同者の輪を広げていくよう尽力します。最後に今年度より各セ

ンターをエリア毎にまとめてコーディネーター職員を配置します。会員、ボランティア、賛助企業職員がひとつになりYMCA運動を広げたいと願っています。今年度もよろしく願います。

本部事務局

(本部事務局長 星野太郎)

省力化へロボットも活用

本部事務局は各事業とYMCA全体の働きを支えし、それらを最適化、最大化できるように働きに努めます。はじめに人事計画です。人や社会の健康を願うYMCAとして、その働きを担う職員がより健康で働きやすい環境の整備を進めます。中心的にこれにあたる推進タスクチームを設け、人事・研修制度の再構築と合わせてより働きがいのある職場づくりを目指します。そして予算計画と設備投資計画ですが、コロナ前の予算水準に戻ること

を前提とせずに、コロナ後も安定運営が可能な各事業の適正要員と予算規模を再検討します。また、施設の修繕も計画的に進め、安全・安心な施設を保てるよう整備を進めます。東陽町センターでは大規模な消防設備のリニューアルを予定しています。さらにYMCA全体でデジタル化を進めます。勤怠管理システムの導入が始まり、新年度はこれを全体でスムーズに運用していく一年となります。また、管理業務の多い本部事務局では、一部の情報処理作業をRPA(ロボティック・プロセ

ス・オートメーション)の活用によって省力化する試みが始まっています。このRPA導入は個人の方からの大きなご寄付により実現しました。新年度は必要な各部への導入も進めていきます。最後に広報ですが、かねてより広報室と広報委員の皆さんとで作成を進めてきた「東京YMCA広報マニュアル」が完成し、新年度よりこれを用いています。各部と共にこのマニュアルを活用し、より質の高いYMCA広報の展開を目指します。